

取組実績の概要 【2ページ以内】**1. 交流プログラムの枠組み****○日中韓3大学による交流プログラムの確立**

(a) セメスター単位の科目履修や研究室での実験等のプログラム、(b) 研究経験を含むサマープログラム、(c) 大学院課程研究重視型教育プログラム、を確立し、毎年度実施した。

○教育内容に関する情報共有とダブルディグリーの実現

派遣と受入れの両大学教員が確認する修学・研究計画書／記録報告書である「Study and Research Plan/Record」と「秘密保持契約書」を導入するなどを通じて、KAISTとのダブルディグリーの実現に至った。

○質の保証を実現するガイドライン「Joint Implementation Guidelines」の策定

日中韓3大学の運営体制や教育制度等の詳細について明示した文書を作成し、それらの理解と合意のもとで、質の保証を実現し、日中韓の交流・連携プログラムを確立した。

○合同運営委員会(Joint Committee)と国際評価パネル・アドバイザーボードの実施

3大学の構想責任者、並びに本事業の教職員からなる合同運営委員会 (Joint Committee) を設置し、毎年数回に及ぶ委員会を実施した。また、海外の大学と企業から評価委員を招聘し、年度末に3大学の構想責任者からの報告に対して、国際評価を実施した。

○卓越した科学技術の素養を持つグローバル人材の育成、トップリーダーに向けたキャリアの形成、「21世紀型スキル」教育の実施

3大学の教員の連携による教育指導から、グローバルな視野を持つ問題解決型人材を育成するプログラムを実施、さらに、科学技術の知識 (Literacy) と同時に、社会性やコミュニケーション力などの総合力 (Competency) の重要性を議論する「21世紀型スキル」教育を実施した。

2. 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成**○質の保証に関する3大学間の取り組み**

上記合同運営委員会 (Joint Committee) などを通じて、質の保証を伴う連携教育と単位互換、さらにはダブルディグリーを目指した連携運営体制を確立した。また、具体的な学生の交流を行う中で、課題を洗い出し、繰り返し改善策と最適化を議論し、それらを実行に移し、高い質の保証を実現した。

○双方の大学の教員による共同指導体制の確立

ひとりひとりの学生に対し、派遣側、受入れ側双方において指導教員が指名され、派遣と受入れの両指導教員が深く関与することで、交流の成果の高度化を推進した。このため、教員と事務職員が協力し、限られた期間内で受入れる学生とその指導教員のマッチングを適切に行うための制度を整えた。

○「Study and Research Plan/Record」の導入

全ての参加学生に対し「Study and Research Plan/Record」の提出を義務付けた。この書式は単に履修科目の承認を目的として使用される「ラーニングアグリーメント」以上に、双方の大学の教員が共同で、計画段階から終了時まで一貫した教育指導を行うという長所を持つ。

○学生の履修への配慮と質を保証した成績管理と単位互換の実績

本プログラムに参加した学生に対しては、プログラムに対する満足度のアンケートとは別に、派遣終了後の成果を確認することを目的とした調査を行った。その結果、平成24年度より最終年度まで本学から派遣を行った学生、清華大学12名、KAIST27名の内、清華大学派遣学生6名、KAIST派遣学生13名が帰国後、滞在先で履修した科目の単位認定を本学で申請し、単位互換が認定された。また本学が受入れた学生では、サマープログラムにおいて、清華大学学生13名、KAIST学生20名、すなわちサマープログラム参加留学生全員が、本学の単位認定を受け、大学院課程研究重視型教育プログラムでは、清華大学学生17名の内10名、KAIST学生14名の内10名の単位認定が行われた。さらに参加学生の将来の学位取得への貢献やキャリア形成に向けた効果の検証も行ったが、本学が受入れた学生の大半が、本プログラムが、学位取得や将来のキャリア形成に有効であった、さらにはアジアと世界に視野を広げる初めての経験であった、と回答している。

○KAISTとの「ダブルディグリープログラム」の覚書の締結

本学は平成16年以降、清華大学との間で合同学位プログラムを実施しており、修士課程におけるダブルディグリーのパイロットプログラムを遂行している。本プログラムでは、本学とKAIST、KAISTと清華大学との間で、ダブルディグリープログラムの締結を推進するために、平成26年度に各2大学間でJoint Education Programを推進する協定 (Agreement) にサインをし、最終年度である平成27年度に、機械工学の分野で、KAISTと本学との間でダブルディグリープログラムの覚書 (Memorandum of Understanding) を締結した。

○教員に対するフェカルティデベロップメント(FD)の実施

専門の講師を招聘し、英語によるプレゼンテーションにおける口頭発表術や発表の態度からスライドの作り方まで、また講義における教授法について、フェカルティデベロップメント(FD)研修を行った。また、教員のみならず事務職員の国際化にも取り組み、国内外で機会のある毎に、国際交渉現場に同席してもらい、教職員の国際的視野の拡大も推進した。

3. 外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備

○外国人学生の受入れのための環境整備

留学生の一元的在籍管理、出願手続きのオンライン化、留学アドバイザー及びチューターによる生活指導、質の保証を考慮した研究指導、グローバル企業による英語によるインターンシップの試行など、当初計画に沿った組織的な支援体制の拡充と受入環境の整備が実現した。

○在籍管理の取組と成果

外国人学生の利便性向上のため、出願手続きを順次オンライン化し、就学に必要な書類の英文化を実施した。

○生活支援の取組と成果

来日する外国人学生に対してチューター学生を指名して、事前説明会を開催し、専任のプログラムコーディネーターらによるチューター教育を実施した。また、地震対策などの危機管理についても、全て必要文書の英文化を整え、口頭説明と共に、留学生の日常生活での留意点の理解も徹底された。さらに、宿舍担当の教育研究支援員を置き、民間宿舍について比較検討の上、大学が賃貸借契約（アウトソーシング）を行うことにより、留学生に対して奨学金支給と併せて宿舍（シェアハウス）の提供を実現した。

○授業履修などの取組と成果

Study and Research Plan/Recordにより、留学生自身の目標が定まり、客観的な指標となった。また授業を行う教員側も、本プログラムの趣旨を理解し、専門分野の異なる学生に対しても理解を深めるような英語での教授内容を整備するなど、大学教職員の養成にもつながった。

○外国人学生に対する就職支援について、産業界との連携向上に関する取組

英語によるインターンシップを行う企業のリストを作成し、外国人学生に公開するとともに産業界との連携向上を促進した。

○日本人学生の派遣のための環境整備

派遣留学支援体制の拡充、留学前の語学力及び留学意欲の向上施策の実施、留学中のサポート体制の構築等、派遣のための環境を整備した。

○留学前と留学中のサポート体制の取組と成果

専任のプログラムコーディネーター、留学アドバイザー、教育研究支援員、特任教員らによる留学前オリエンテーションの実施や個別相談対応等を通じて、留学先での修学計画等、これまで指導教員や学生本人の自助努力に委ねられていた部分についても、質の保証の観点から、積極的な指導を行った。また、月報などの現状報告の提出を義務づけ、メールにより国際部との間で定期的に連絡をとり、安否確認、修学・生活上の各種相談に応じた。さらに、全学で危機管理サービスに加入し、派遣学生個人のみならず、大学組織として海外で発生する危機管理に迅速に対応できるように整備した。

4. 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

○キャンパスアジアの他大学の学生、理工系3プログラム12大学間の合同事業に関する取組

本学は、キャンパスアジア理工系3プログラムに参加する12大学の学生交流を推進するため、平成27年7月に3プログラム合同のスペシャルレクチャー「Technology of Tomorrow」を主催した。また、3プログラムの構想責任者と関係者が集まる合同報告会を主催し、各プログラムで上手く行った事例や困難であったことなどの意見交換を行い、さらなる高度なグローバル展開力への強化に関して議論を行った。

○キャンパス・アジア全10プログラムの情報発信webサイトの構築

CAMPUS Asia Research Reviewというキャンパス・アジア全10プログラムの最新のニュースをまとめた情報発信webサイトを英語で開設し、国内外へのプログラムの情報提供を強く推進した。

○STEMタイプ授業、高校生との交流事業の実施

グローバル人材育成のためには、より早い時期から海外に目を向けることが不可欠であり、本事業では、留学生と高校生が協働して課題を議論するSTEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics)タイプの授業Science and Engineering Communication Projectや、JSTが実施する「日本・アジア青少年サイエンス交流計画（さくらサイエンスプラン）」、筑波で開催されるつくばサイエンスエッジなどとの交流事業を実施し、若年層に対する国際意識向上に向けたより積極的な取組みを行った。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	0人	0人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	40人	40人
実績	0人	0人	11人	15人	10人	16人	12人	21人	6人	17人	39人	69人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。